

当社が実現可否の調査を実施し、検討・精査して実施計画書を策定。国・県・地方自治体およびプランナーと協賛・査定等を行い、発電所の開発・運営をオールインワンで事業を推進する。

2016年8月に商業運転を開始した野田バイオパワーJ.P(14MW)をはじめ、山梨県大月市(14・5MW)、茨城県神栖市(51・5MW)、富山県高岡市(50MW)、



野田バイオパワー-JP発電所

### プロジェクト進行中バイオマス発電所



当社の電源開発実績および計画

当社は2011年10月、電力の自由化およびFIT(固定価格買取制度)を活用し、森林資源等を燃料とした木質バイオマス発電所を開発・運営する電源開発事業者として設立した。

当社は、電源開発、燃料供給・開発、蓄電池開発を着実に推進し、今後も地域社会への貢献を目指す。



New Energy Development Co., Ltd.  
シンエネジー開発株式会社

シンエネジー開発株式会社

- 資本金：8,000万円
- 設立：2011年10月
- 従業員数：47名(2019年11月1日現在)
- 本社所在地：〒378-0005 群馬県沼田市久屋原町335-10
- 事業内容：バイオマス発電所の開発運営コンサル、バイオマス燃料の調達・供給・販売
- URL：<http://www.n-e-d.net>

北海道石狩市(50MW)、鳥取県米子市(54・5MW)の6事業は、当社の開発済み案件であり、現在も開発中の案件が複数件ある。一方、バイオマス発電所は燃料の確保が重要だ。当社は燃料の研究・開発にもいち早く注力し、2016年8月末に新規バイオマス燃料「トレファクション・ブリケット」の製造の実証テストに成功したことをプレス・リリースした。「トレファクション・ブリケット」は、従来の森林資源等をトレファクション(半炭化)技術で燃料化したものであり、従来の木質チップや木質ペレットなどの燃料に比べ、熱量、粉砕性、耐水性、輸送効率の点で格段に優れているのが特長だ。

## MESSAGE

エネルギーを開発・創出し  
社会への貢献を目指す

社長  
高橋伸也  
たかはし しんや



当社は、国内の木質バイオマス発電所の電源開発実績を踏まえ、木質バイオマス発電をはじめとしたクリーンなベースロード電源の開発を推進し、CO<sub>2</sub>の排出量の削減に取り組んでおります。そのため当社では、木質バイオマス発電の燃料として、国内外からの未利用材・木質ペレットやPKS(パーム椰子殻)の調達を行うとともに、次世代バイオマス燃料の開発を行い、また不安定電源のベースロード化のための蓄電池の開発を行っております。今後は、上記の取り組みにより、再生可能エネルギー・電力業界をリードし、社会に貢献することを目指していきます。

経団連会員の皆様方には、一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。